

各位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第7号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第7号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R3 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R3 (hr)	平年比 (%)
6月	1	21.6	22.1	0.5	27.6	26.8	-0.8	16.7	18.2	1.5	21.8	56.0	257	25.9	13.8	53
	2	22.3	24.6	2.3	27.8	31.2	3.4	17.8	19.1	1.3	28.6	0.0	0	23.0	45.6	198
	3	22.8	24.4	1.6	27.9	28.0	0.1	18.7	21.8	3.1	40.9	54.0	132	21.2	13.7	65
	4	23.3	23.6	0.3	27.9	28.3	0.4	19.7	20.2	0.5	58.6	39.5	67	18.8	24.5	130
	5	23.9			28.1			20.6			74.3			15.4		
	6	24.6			28.4			21.6			84.4			14.1		

○6月4半月の平均気温は、平年に比べて0.3°Cほど高く推移した。また、日照時間は多照傾向となった。

◀福岡管区気象台の1か月天気予報（6月17日発表）（予報期間 6月19日から7月18日まで）

向こう1か月の気温は、ほぼ平年並ですが、寒気の影響を受ける時期があるため、1週目の気温は平年並か低いでしょう。向こう1か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並でしょう。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：6月19日）

項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
コシヒカリ	本年値	75.3	634	13.2	37.2	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年に比べやや高く、茎数は多い。 主稈出葉数は平年より0.2葉多い。葉色は平年より濃い。 現在止葉出葉中である。 幼穂長 50～55mm 葉耳間長 -5～-7cm程度
	平年値	72.0	561	13.0	36.1	
	平年比(差)	105	113	+0.2	+1.1	

※ 平年値は、H23～R2年度の平均値 ※耕種概要は稲作情報NO1参照

（管内の生育状況）

- 現在、生育ステージは、穂孕み期を迎えている。
- 情報田は、葉耳間長からみた出穂日は7月1日頃と予想される。
6月21日実施した巡回調査からは、出穂予想は6月24日頃～7月2日頃であった。
- 生育が旺盛で葉色が濃い圃場では、葉いもち病の病斑（停止型）を確認した。

3. 今後の管理

1) コシヒカリ

(1) 水管理

- ・「コシヒカリ」は、穂孕期を迎えている。

《表2 管内におけるウンカ類の払い落とし調査結果》

調査日	セジロウンカ		トビロウンカ		ヒメビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
4月5日移植	63	10	2	0	79	3	コシヒカリ(白石町) ※箱施薬剤無施用

※25 株払落とし総数を計上している。

②葉いもち病

- ・圃場にある『置き苗』は、葉いもち病の発生源になるため、すぐに除去する。
- ・6月に入り、天候ははじめじめとした曇天で推移したことで、生育が旺盛で葉色が濃い圃場では、葉いもち病の病斑を確認しており薬剤防除を行う。とくに発生が多いと予想される場合（上位3葉に葉いもち病の病斑を確認した時）には、穂孕期の防除を徹底する。ただし、セタコシヒカリは県特別栽培認証制度に
応じた栽培法を実施しているため、農薬散布する前に生産管理責任者である JA 等指導機関に確認するとともに、農薬成分回数9成分を超えないように留意する。

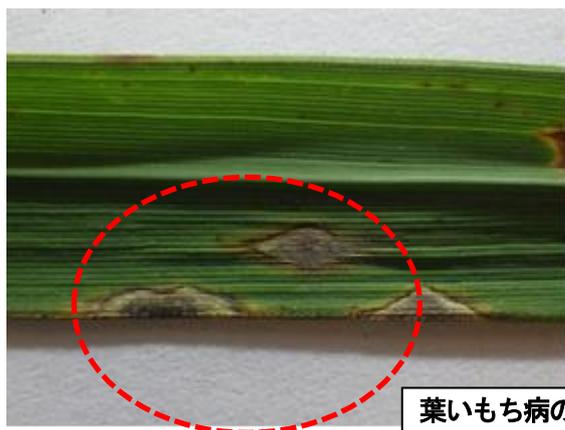
※6月13日、16日～18日にかけて好適条件または準好適条件となっているので、今後曇天が続く場合は、「いもち病」に要注意である。

《表3 BLASAMによる葉いもちの感染好適条件の出現状況》 県防除センターHP より

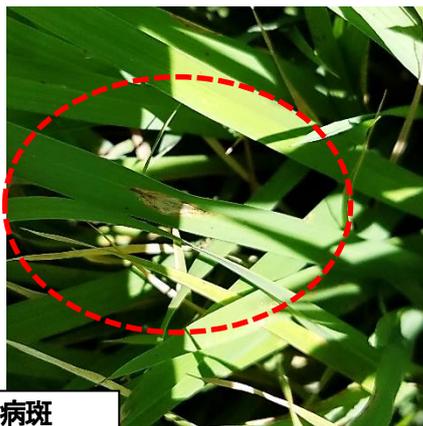
6月

	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日
白石	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
伊万里	-	-	-	-	-	4	●	●	-	-

- 1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温は20℃未満)
 - 2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温は25℃以上)
 - 3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温は15～25℃の範囲外)
 - 4: 準好適条件(湿潤時間は湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- : 好適条件(湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)
 -: 好適条件の出現なし
 ?: 判定不能



葉いもち病の病斑



置き苗に葉いもち病斑

2) 普通期水稻

《共通》

- ・本年は、出芽期～1葉期にあたる5月末～6月上旬が、日中気温が高く日射量が大きく経過したため、場合によっては出芽不良や出芽後の灌水不足による萎れなどが生じた。
- また、被覆資材の除去が遅れたところでは苗質が軟弱徒長ぎみとなっていた。



- ・そのため、以下に特に留意する。
- 本年の麦類は平年より収量が多く、麦わらの量も多い。
麦わらすき込みを行った圃場では、ガスのわきが予想されるので、初期生育を促進するため、移植前日までに窒素成分で0.5g～1g/箱の弁当肥を施用する。
 移植後は、ガス抜きによる水管理が重要である。
- 本年は暖冬の影響を受け、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の発生が多いことが懸念される。
 発生が多い圃場では、特に移植後1週間は深水にならない様に注意する。

(1) 「夢しずく」

- ・「夢しずく」は、早いところで6月6日（平垣上部）から始まり、6月12日～16日に移植盛期をむかえた。今後は、移植時期に応じた水管理を徹底する。除草剤は、薬剤の使用基準を守り、処理後7日経過したら浅水管理に移行する。
- ・移植後の断続的な降雨により常時淡水した圃場ではガスの発生が目立っている。さらに前作の残さや、麦わらが多い水田では、今後ガス（湧き）と還元（酸素不足）が進むことが予想される。「ガスの発生が著しい場合」は、除草剤処理から7日経過したら、「ガス抜き」のために半日～1日程度の落水を行う。特に、足を踏み入れずに自然に気泡が出るようであれば直ちに落水する。（表4参照）

《表4 ガス（湧き）発生程度及び対策》

湧きの程度	様相とガス程度水稲への影響	水稲への影響	ガス対策（7月上旬以降）
稀	足を踏み込んでも気泡なし	なし	必要なし
少	足を踏み込むとわずかに気泡が見られる	なし	必要なし
中	足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	落水後に用水更新
多	足を踏み込むと盛んに気泡を発生	根張り不良	落水後に用水更新を繰り返す
甚	晴天時自然に気泡発生する（ばちばちと音が聞こえる。）水田歩くと著しく気泡発生。	根伸長阻害、黄化	中耕と用水更新を繰り返し 回復後には、間断灌水（本格的夜干）



手を田んぼに入れると、気泡（ガス）が激しく発生する
 ⇒ガスの障害により生育抑制や古い葉の**葉先に褐色の斑点が発生する。**

- ・雑草の防除価は、降雨により効果の振れが大きく、圃場によって発生状況を確認して処理時期を逸さないように行う。
 本年は、代掻き作業後の降雨により、田植え作業が計画より遅れて実施している圃場も多い。
 田植えまでの期間があき、気温も高く推移したことで雑草発生が早く、場合によっては除草剤の効果が十分発揮できていない圃場も確認されている。
 特に「ホタルイ」の発生を確認する。その場合、中後期除草剤の対応も視野にいれる。

(2) 「さがびより」・「ヒノヒカリ」

- ・「さがびより」は、早いところで6月18日から始まり、6月19日～23日に移植盛期をむかえる（見込みである）
- ・水管理等は「夢しずく」を参照する。

(3) 「ヒヨクモチ」

- ・「ヒヨクモチ」は6月25日以降に移植する。

4. 台風・大雨対策

- ・台風対策は、水稻の生育ステージによって異なるが、本田移植後（活着期以降）は、強風による水稻の茎葉の水分収奪や損傷を防止するため、必ず深水管理を行う。併せて、台風通過後は、新しい水と入れ替え、こまめな間断灌水や浅水管理を行って根の機能回復に努める。
- ・近年、集中豪雨による冠水で、クリーク水の流入や、深水状態が続くことにより、スクミリンゴカイの被害拡大が懸念される。そのため、用排水の管理をきめ細かく実施するとともに、食害が多い場合はメタアルデヒド剤等で防除する等の対策を行う。